

講座の目的

佐伯市内外在住問わず、地域創生の学びに関心を持つ人々を対象に、自然と人と地域共同体の関わりにおける思想や哲学を基盤とし、「さいき7つの創生」にかかわる分野を総合的に学習する講座を実施することにより、内発的・で持続可能な地域の発展に寄与する価値観と行動力を持つ人材の育成を目的とします。

※内発的発展とは「伝統の再創造」であると、社会学者の鶴見和子は定義しています。

市民大学講座の構成

前期（令和3年12月～令和5年3月）

まず「地域力の再発見」のテーマを支えている「内発的発展論」の学習から始まり、「自然と人と地域」の関係性を人間の精神性（スピリチュアリティ）、思想、歴史、哲学、教育の分野の専門家から多面的に学びます。

後期（令和5年4月～令和6年9月）

より現実的な地域や社会の課題（人口減少、環境、景観、ライフスタイル、流域治水、地域づくり等）について、持続可能性を視野に取り組む方法を様々な専門の講師から学びます。

後期講座の特徴

佐伯市で初めての市民大学講座の取り組みですが、受講生の皆さんの前期講座での学びに対する熱意にこたえるべく、後期も各専門分野における一流の講師陣をそろえています。後期では自主的に各自が講師の本を読んで予習し、本番の講座では講義と共に、質疑応答や議論などのコミュニケーションを重視する内容となります。3年目の令和6年1月から3月までは、受講生によるグループ研究プロジェクトの企画と計画をサポートするワークショップを実施します。4月の講座から5か月間、グループ研究プロジェクトの自主的な研究活動の定期的な進捗状況の確認の場として講座を設け、最終発表までの工程を講師や講座コーディネーター、地元学の会のメンバーがサポートします。3年間の学びの集大成として、令和6年9月にグループ研究プロジェクト発表会を実施し、行政や地域の方々、一般市民からの評価をいただく予定です。

「地域力の再発見」講座の成果

講座での学びとグループ研究をきっかけに、地域活性化のための価値観と行動力を身につけた受講生らが、与えられた場所や地域で内発的発展や、持続可能な社会を目指す一歩となるような実践に取り組むことが期待されます。3年間の受講で、共に学び、議論し、話し合った仲間としての共同意識が形成され、市民大学講座終了後も、受講生の間でネットワークが持続し、助け合いや情報交換などを通して各地におけるまちづくりや地域おこし活動が活性化することが期待されます。



市民大学前期講座（令和3年12月～令和4年10月まで）のふりかえり

令和3年12月から令和4年10月までに86名の受講申し込みがあり、そのうち29名が前期講座15回を一括して申し込んでいます。これまで10回の講座を受けた受講生は延べ294名で、1回につき平均29名となります。

スライドによる講義、パードウォッチング、ワークショップ、グループワークと発表、レジュメによる著書の読解等、多彩な方法による学習に富んでいました。講義内容についても、民俗学から導かれる内発的発展のありかた、文学と科学の接点にみる精神性、環境倫理の視点からとらえ直すSDGs、綿密な資料と

データに基づく鉱山産業の歴史解明など、様々な分野を横断的かつ広範に、そして深く読み解き学んできました。毎回記入してもらったアンケートも、平均して94%の受講生が講座を総合的に「やや満足」か「満足」と評価しています。

講師とは講義後も、お茶会形式による受講生との気軽な語り合いの場を設け、懇親会の団体の場では講師と受講生がより深い議論を持つ機会がありました。後期もこうした講師と受講生が対面で語らう機会を、継続して設ける予定です。



佐伯市民大学・令和四教室の講座は、「地元学の会」が運営しています！

水俣で生まれた地元学の手法で地域に埋もれた宝を見出し、地域力を再発見する学びを軸とした市民大学講座を運営するために結成された会です。地元学とは「ないものねだりをやめてあるものを探し、地域の持っている力、人の持っている力を引き出し、

あるものを新しく組み合わせ、ものづくり、生活づくり、地域づくりに役立てていく」という思想を軸とし、それぞれの風土と暮らしの成り立ちの物語という個性を確認し、大地と人と自分に対する信頼を取り戻し、自分たちでやる力を身につけていく学びです。

参加費	お申し込み	お問い合わせ
☐ 1 講座ごとの場合 1,000円（税込） → 会場にて現金支払い	QRコードより Google フォームにて	メール saiki.jimoto@aku@gmail.com
☐ 後期全納（14回）10,000円（税込） → 指定口座へ、事前に入金いただけます。	FaceBook 公式ホームページ	地元学の会 事務局 Tel.0972-48-9293 大分県佐伯市戸穴 1304-1
※振込み先は、お申し込み後にお知らせします。 ※高校生の参加は無料です。 ※当日申し込みは、席に余裕があれば可能です。		

地元学の会

佐伯市民大学 令和四教室

後期・講座プログラム
令和5年4月～令和6年9月



地域力の再発見！

自然と人と地域を紡ぎなおす学び。

講義タイトル

進化する里山資本主義

縄文人から学び、
自然と文化が融合する地域づくり

景観の昔と今から未来を考える ほか

佐伯市民大学支援事業

後期・講座内容と講師紹介

佐伯市の取り組む「さいき7つの創生」

自然・生活環境、生活基盤、保健医療福祉、教育文化、産業振興、まちづくり、地域活性化
これらにかかる分野を取り入れた講座です。

※開席内容は後日ネット配信します。詳細はFacebook公式ページにて。

5月の講師 葉谷 浩介



撮影：水戸通信

1964年山口県生まれ。地域エコノミスト、株式会社日本総合研究所
主席研究員、平成大合併前の約3200の市町村すべて、海外115カ国
を私費で訪問。地域特性を多面的に把握し、地域振興や人口問題に
関して情力的に研究・執筆・講演を行っている。著書に「デフレの正
体」、「里山資本主義」、「観光立国の正体」(山田雄一郎氏との共著)、
などがある。

『進化する里山資本主義』

日時：2023年5月21日(日) 14時～16時
会場：さいき城山桜ホール 小ホール

講座内容：オーガニックシティの実現を目指す佐伯市にふさわしい
地方創生のあり方を、全国各地の事例を紹介しながら、経済や資源、
エネルギー、人口などの様々なデータの分析を軸に、進化する里山
資本主義の発想から考えていく。

7つの創生 自然・生活環境、生活基盤、保健医療福祉、
教育文化、産業振興、まちづくり、地域活性化

6月の講師 辻 誠一郎



東京大学名誉教授。専門は第四紀地球科学、環境史、植物文化史、歴
史景観生態学。花粉分析を手法として最終間氷期以降の植生遷変史、
景観生態系史を研究。また歴史民俗資料と遺跡出土植物遺体から植
物文化史を研究。最近では哲学の分野で地球生命史観、縄文史観を論
じる。2021年7月27日に世界文化遺産登録された「北海道・北東北
の縄文遺跡群」の登録推進専門家委員会ほか各地の遺跡発掘調査
委員会・史跡整備委員会の委員を務める。

縄文人から学ぶ、自然と文化が 融合する地域づくり

日時：2023年6月18日(日) 15時～17時
会場：佐伯東地区公民館 集会室

講座内容：縄文人は流域生態系と内湾生態系を中心に地域性に富ん
だ生活域となわち人為生態系を形成。機度となく起こる巨大災害を果
り越えてそれぞれの地域性はゆるやかに変容しつつも、土地・人・食料
を奪い合う戦争は起こりませんでした。それぞれ地域性は相互的かつ
相補的だったからです。

7つの創生 自然・生活環境、生活基盤、保健医療福祉、
教育文化、産業振興、まちづくり、地域活性化

8月の講師 島谷 幸宏



国土交通省九州地方整備局武雄河川事務所長、九州大学大学院教授を
経て、熊本県立大学特別教授、大正大学特任教授。専門の河川工学を軸
に、流域治水の技術確立を進めつつ、流域治水の導入過程で環境保全、
グリーンインフラ、多自然川づくり、マイクロ小水力、IoT等と掛け算を行い
持続的な社会を形成する手法について研究を実施。2021年よりJSTの
拠点形成プロジェクトである「流域治水を核とした復興を起点とする河
統社会」地域共創拠点のリーダー、著書に水辺空間の魅力と創造、河川
風景デザイン、2017年九州北部豪雨集落会議の記録などがある。

持続的な社会構築のための 流域治水の展開

日時：2023年8月27日(日) 15時～17時
会場：佐伯東地区公民館 集会室

講座内容：温暖化に伴う豪雨災害のリスクが高まる中で、新たな治水
方式である流域治水とはどのような治水なのか？また流域治水対策
を実施するときに、環境保全、小水力発電、産業創成などどのように
掛け合わせ持続的社会的構築を目指すことができるのかについて講
演します。

7つの創生 自然・生活環境、生活基盤、保健医療福祉、
教育文化、産業振興、まちづくり、地域活性化

9月の講師 アレックス・カー



credit: Peter Duong

1952年、米国メリーランド州生まれ。東洋文化研究者、著述家。
1964～1966年、父の仕事の関係で横浜に住む。エール大学日本
学部と英国オックスフォード大学中国学部から学士・修士号を取得。
1973年に産島農場組合(いや)に購入した茅葺き民家「ちいおり」から
始まって、日本各地で数十年前の古民家を修復してきた。景観コンサル
タントを行い、滞在型観光の促進に寄与。著書に「美しい日本の残像」
「犬と鬼」「ニッポン景観論」など。

景観の昔と今から 未来を考える

日時：2023年9月17日(日) 14時～16時
会場：さいき城山桜ホール 小ホール

講座内容：日本の地方は過疎化や少子高齢化で空き家が増え、大きな
景観の変化が起きている。しかし、景観破壊の根源は戦後の高度成長
期から続く土木工事であり、それを見逃してきた日本の「文化の病」
を指摘しつつ、そうした現状をどう乗り越えて、魅力的な地方の景観を
再生し、次世代へつなげていけるのかを様々な事例から考える。

7つの創生 自然・生活環境、生活基盤、保健医療福祉、
教育文化、産業振興、まちづくり、地域活性化

10月の講師 古川 保



1947年佐賀県生まれの建築士。熊本大学工学部卒業後、1992年
にすまい塾古川設計室(有)を設立し、翌年「川尻六工匠」を結成。日本
建築士会連合会まちづくり大賞、九州建築士会住宅コンペ最優秀賞、
真の日本の住まい住宅コンペで林野庁長官賞、2014年朝日放送の
「大改造!! 劇的ビフォーアフター」で全国の匠が選ぶビフォーアフ
ター大賞など、多数の受賞歴がある。2015～2017年に佐伯市の遊
志庵の古民家再生の設計を担当。

木材を使うだけでは、 日本の山は守れない

日時：2023年10月15日(日) 15時～17時
会場：佐伯東地区公民館 集会室

講座内容：日本は森林大国である。なのに日本建築の7割は外材を
使って家を建てる不思議な国だ。日本の家は、山林と共存してきた。今
は、世界中の資材・燃料を求めて、飛びまわる。合理的でも、有限なも
のは行き詰まる。土と木と竹と草を建築資源と考えれば、日本は資源
大国だ。山と人と食について、地方から考える。

7つの創生 自然・生活環境、生活基盤、保健医療福祉、
教育文化、産業振興、まちづくり、地域活性化

12月の講師 辻 信一



1952年生まれ。文化人類学者、明治学院大学名誉教授。環境＝文
化NGO「ナクモノ倶楽部」代表。米国コーネル大学で文化人類学
博士号を取得後、明治学院大学国際学部で「文化とエコロジー」など
の講座を担当。「スローライフ」、「ハチドリ」のひとしく、「キャンデル
ナイト」、「しあわせの経済」などの社会ムーブメントの先頭に立つ。
『スロー・イズ・ビューティフル』『常世の舟を漕ぎて 熟成版』など
著書多数。

新スロー・イズ・ ビューティフル

日時：2023年12月3日(日) 15時～17時
会場：佐伯東地区公民館 集会室

講座内容：「スロー・イズ・ビューティフル」から20年、世界を取り巻く
絶望の嵐は深まっている。希望はあるのか？ぼくの答えはイエスだ。
そのヒントは、例えば、大分が生んだ偉大な思想家、三浦崑園(1723
～1789)のこんな言葉にある。「枯れた木に花が咲くにおどるく
より、生きている木に花が咲くのおどるきなきなり」 さあ、みんなで
『新スロー・イズ・ビューティフル』を創って、希望の光を灯そう。

7つの創生 自然・生活環境、生活基盤、保健医療福祉、
教育文化、産業振興、まちづくり、地域活性化

総合講座の講師 杉浦 嘉雄



1953年、岐阜県大垣市生まれ。専門分野は鳥類保護・環境教育、日本
文理大学名誉教授。生物多様性をテーマにした持続可能な地域づくり、
生態教育、自然体験活動など継続的に実践。環境教育や自然体験が子
どもの心の健康や自然観に与える影響に関する研究、「自然のイン
タープリター(通訳)」という視点から考察する宮沢賢治の作品研究な
ど行う。日本生態系協会、日本鳥類保護連盟、日本森林環境学会、宮沢
賢治学会など所属。祖母・順・大瀬ユネコエコパーク推進協議会会長。

グループ研究プロジェクト企画の ためのワークショップ (3回連続)

日時：2024年1月21日(日)、2月18日(日)
3月17日(日) 全て15時～17時
会場：佐伯東地区公民館 集会室

講座内容：前期・後期を通して佐伯市民大学講座で学習したことを
ベースに、受講生による「グループ研究プロジェクト」の企画作成をサ
ポートするためのワークショップです。個々人のやりたいテーマを見極
めた後、関連するテーマのグループを形成し、最終的にグループ研究
プロジェクトの企画と実施計画を作成するまで手伝います。考え
方や働き方の多様性を尊重しつつ、各自が実行可能な役割を受け入
れ、一つの目標に向かって協力する力をつけます。

7つの創生 総合

アシスタント 岩佐 礼子 あまべ文化研究所代表。地域づくりに携わる。

学びの成果を
実現させるチャンス!

グループ研究プロジェクト会議、 グループワーク (5回連続)

日時：2024年4月21日(日)、5月19日(日)
6月16日(日)、7月21日(日)
8月25日(日) 全て15時～17時
会場：佐伯東地区公民館 集会室

講座内容：3月に決定した「グループ研究プロジェクト」の実行計画に
沿って、4月から8月まで月一回のペースで各グループが会議を開き、
研究の進捗状況を確認し、必要に応じてグループワークを実施します。
8月は9月の最終発表会の予行練習をグループ全部で実施し、発表内
容を共に興味しながら完成を目指します。

佐伯市民大学講座グループ研究 プロジェクト発表会

日時：2024年9月15日(日) 14時～16時
会場：さいき城山桜ホール 小ホール(予定)

内容：4月から8月までに実施した「グループ研究プロジェクト」の最終
的な結果を発表し、佐伯市民大学講座の学びの成果を、佐伯市の関係
部署、研究に協力していただいた市民の方々などを招待して評価して
いただく機会となります。この発表会で3年間にわたって実施された佐
伯市民大学講座は終了しますが、最終回でグループ研究プロジェクト
の実現可能性を見極め、今後の地域づくりへの一歩を踏み出すきつ
かけとなるかもしれません。